

一
五

西脇正信編輯

刑法
治罪法
附典類纂
全

發兌書林
二書堂

特 14
351
45

凡例

- 一 此書ハ刑法治罪法頒布以降明治十五年一月三十一日迄ニ發スル刑法附則及治罪法ニ關スル官令ヲ本法ノ條章ニ據リテ類纂セシ者ナリ
- 一 書中太政官布告布達ハ單ニ布告又ハ公達トシ其他各省ノ達ハ其省名ヲ冒頭ニ記載ス
- 一 書中令狀様式及犯罪既決表死刑宣告榜示ヲ除ク外其他ノ諸表ハ畧シテ掲ゲズ
- 一 拾遺ハ脱稿シ後二月六日迄ニ發布セラレシ令達ヲ掲ク
- 一 此書ハ唯謄寫ノ勞ヲ厭フ諸君ノ爲メニ簡易ヲ主トシテ編制セシ者ナレバ疎漏ノ責ヲ免カレズ看者之ヲ恕セヨ

明治十五年二月

編者誌

目次

刑法之部

違警罪

刑法附則

新舊法比照

罰則處斷

治罪法之部

總則

通則

違警罪裁判所

輕罪裁判所

重罪裁判所

豫審

現行犯罪

令狀

檢證及七物件差押

現行犯ノ豫審

公判

通則

違警罪公判

重罪公判

商船內犯罪取扱規則

各裁判所位置及管轄區畫

被告入責付手續

所屬代審人規則

雜則

裁判所順序

使取規則

書記局其他訟廷等掌務心得

印章

公文往復

治安裁判所始審裁判所權限

令狀樣式

證諸表

重公廷取締

巡查兵員使用手續
罰金科料裁判費用沒收品處分

拾遺

治罪法之部

總則

豫審

令狀

雜則

榜示

刑法
治罪法 附典類纂

西脇正信編纂

刑法之部

違警罪

○公達第七拾七號 明治十四年八月三十一日 警視廳 府 縣 (東京府ヲ除ク)
刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ
定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ヘ届出ヘシ此旨相達
候事

○布告第六拾四號 明治十四年十二月九日
密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘ
トモ當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ
地方官ヘ委任ス

右奉 勅旨布告候事

○布告第六十二號 明治十四年十二月六日

明治十年一月一第拾三號布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分規則ノ儀ハ明治十五年一月一日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

刑法附則

○布告第六拾七號 明治十四年十二月十九日

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

刑法附則目錄

第一章 主刑執行

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ決行セシム

但其期限ハ午前十時トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス

但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス
 第三條 死刑ノ執行畢ルタル時ハ書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

- 元始祭 孝明天皇祭 紀元節
- 春季皇靈祭 仁孝天皇祭 神武天皇祭
- 六月大祓 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭
- 天長節 後桃園天皇祭 新嘗祭
- 光格天皇祭 十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ

檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ執行スヘシ
 第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルヲ得
 第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得
 第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告スヘシ
 刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
 犯罪ノ地
 犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待ツテ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受クヘシ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家属ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ獄司ノ監督ヲ受ケシム若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ獄司ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後

犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セズ
 第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及
 ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ
 第二拾條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於
 テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ケル
 亦同シ

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束ス
 ル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者ト
 ス
 第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫シメ其住所ヲ定メシ
 ヲ主刑ノ終リタル時獄司ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察

所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル
 者又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢
 察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算
 滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附スヘ
 シ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ
 獄司若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警
 察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致
 スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯
 人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途

中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可
 シ
 犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其
 地ノ警察所ニ遞送ス可シ
 第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限
 間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ
 第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件
 ナ遵守ス可シ
 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監
 視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ム
 ヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ
 其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ
 許サス
 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申
 請シ許可ヲ受ク可シ
 四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ己ムヲ得
 サル事故アル時ハ其自由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受
 ク可シ
 第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅
 ニ臨檢スルヲアル可シ
 第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル
 時ハ其事由轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記
 載シタル書類ヲ遞送スヘシ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シ旅券ヲ付與ス可シ犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直テニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間懲治場ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 懲治場ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ

住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換へタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル

時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フヘシ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ獄司ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシトシ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日
- 二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事
- 三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
- 四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停

止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日獄司ヨリ其證票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ
 監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已
 ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時
 ハ其事由ヲ届出ツ可シ
 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ叅會スルヲ
 許サス
 三 事故アリテ住居轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ
 許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス
 四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス
 第四十五條 特別監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其
 家宅ニ臨檢スルヲアル可シ
 第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レ

ハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シ
 タル獄司ニ遞送ス可シ
 主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於
 テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ
 第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ヲク及ヒ引取人ナ
 キ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ懲治場ニ留置ス可シ
 第四章 刑事裁判費用
 第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人
 通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十
 一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事裁判費用ト
 爲ス
 第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五十錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿二十五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出
ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地
ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アル
ニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九
十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償
金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル

翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與スヘシ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前
ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還
付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ
請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ
買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原
價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス
若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ム
コトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムコトヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑

事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非シハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

正誤

内閣書記官

第九條ノ〔獄司〕ハ〔監獄管理長官〕ノ誤 其余ノ條ノ〔獄司〕ハ〔典獄〕〔獄丁〕ハ〔押丁〕ノ誤 第三十二條第三十三條及ヒ第四十七條ノ〔懲治場〕ニ留置ハ〔監獄中〕ノ別房ニ留置ノ誤

新舊法比照

○布告第八拾壹號 明治十四年十二月二十八日

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ニ從フヘシ

第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ

- | | |
|--------|------|
| 新法 | 舊法 |
| 一 死刑 | 斬絞 |
| 二 無期徒刑 | 懲役終身 |
| 三 有期徒刑 | |

- | | |
|--------|-------------------|
| 四 無期流刑 | 禁獄終身 |
| 五 有期流刑 | |
| 六 重懲役 | 懲役十年 |
| 七 輕懲役 | 懲役七年 |
| 八 重禁獄 | 禁獄十年 |
| 九 輕禁獄 | 禁獄七年 |
| 十 重禁錮 | 懲役十一日以上
五年以下 |
| 十一 輕禁錮 | 禁獄鎖錮十一日
以上五年以下 |
| 十二 罰金 | 贖罪收贖罰金
科料二圓以上 |
| 十三 拘留 | 懲役禁獄鎖錮
拘留十日以下 |
| 十四 科料 | 贖罪收贖罰金
科料二圓未滿 |

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ル時ハ新法ニ

從フ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ス舊法ニ於テ懲役百日ニ
該ル者新法ニ照シ二月

以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從
ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類
若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定
役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ舊法ニ於テ禁獄三十
日ニ該ル者新法ニ照
ラシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時
ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短
キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルコトヲ得ス舊法ニ於テ
一年以上三
年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮
ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新
法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ
禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月
以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從
ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑

ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クル
コトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡
數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ
附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ
該ル時ハ新法ニ從フ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照
シ體刑ニ該時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期
限内ニ納完スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁

錮又ハ拘留ニ換フ

但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ

處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒

收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ

處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ヲ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ

從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ

加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

正誤

明治十四年十一月二十八日 第八拾壹號布告中

初項 (比照スルニハ左ノ下ノ例)ノ二字ヲ脱ス

第壹條(比照)ノ下(スルニハ)ノ四字ハ衍

明治十五年一月十四日

内閣書記官

罰則處斷

○布告第七十二號 明治十四年十一月二十八日

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例

ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ

拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十

日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未
滿ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ス
トアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ
罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ
數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノ
ハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕
罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在地ヲ除ノ外ハ治安裁判所ニ於テ之
ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

治罪法之部

總則

○布告第四十六號 明治十四年九月二十日

書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分
ノ内ハ不及其儀候事(第一項)

右奉 勅旨布告候事

○布告第七十三號 明治十四年十二月二十八日

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當
人ト稱スル者ハ左ノ通

無能力者

- 一 未丁年者
- 二 妻タル者
- 三 白痴瘋癲人
- 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
- 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ

監督ヲ爲ス者

- 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 雇主
- 但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

右奉 勅旨布告候事

○布告第八十二號 明治十四年
十二月二十八日

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年二月三十一日以前審理
ニ着手セシ刑事公十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘
ハラズ仍ホ從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ

右奉 勅旨布告候事

通則

通則

冊一

○布告第四十六號 明治十四年九月二十日

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ(第二項)

右奉 勅旨布告候事

違警罪裁判所

○布告第四拾八號 明治十四年九月二十日

刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事

○布告第八十號 明治十四年十二月二十八日

本年九月第四十八號布告左ノ通改正ス

違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スベキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシムヘシ

右奉 勅旨布告候事

輕罪裁判所

○布告第五十四號 明治十四年十月六日

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所々在ノ地ヲ除ク外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且

其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

○司法省甲第五號 明治十四年十月十日

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

○司法省丙第十三號 明治十四年十月十日 府 廳 縣 (東京府ヲ除ク)

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡査ノ姓名ハ豫メ其地方輕罪并違警罪裁判所へ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

○布告第七十一號 明治十四年十月二十八日

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在

ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事

重罪裁判所

○布告第四十六號 明治十四年九月二十日

治罪法第七十三條第二項陪席判事四名ト有之候ヘドモ當分ノ内二名ト相定候事 (第三項)

右奉 勅旨布告候事

○布告第五拾五號 明治十四年十月六日

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

豫審

現行犯罪

○布告第四十六號 明治十四年九月二十日

治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スル事ヲ得 (第四項)

右奉 勅旨布告候事

令狀

○布告第四十六號 明治十四年九月二十日

治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘ共芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖_レ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラヌ搜索致シ苦シカラズ (第五項)

右奉 勅旨布告候事

○布告第五拾九號 明治十四年十月八日

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

○司法省丙第二十號 明治十四年十二月二十八日 大審院 裁判所 警視廳 府 縣 (東京府ヲ除ク)

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事

檢證及ヒ物件差押

○布告第四十六號 明治十四年九月廿日

治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託

スル事ヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ
囑託スル事ヲ得 (第六項)

右奉 勅旨布告候事

○司法省丙第十五號 明治十四年 警視廳
十二月五日 府 縣 (東京府ヲ除ク)

治罪法實施ノ上豫審判事檢証及ヒ物件差押ノ事件ニ付急
速ヲ要スル場合直ニ巡查ヲ同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使用
スル儀モ可有之候條豫テ可達置此旨相達候事

○司法省丁第二十三號 明治十四年 大審院
十二月五日 諸裁判所

別紙丙第十五號ノ通相達候條此旨可相心得事

(別紙ハ前ニ出ツ)

現行犯ノ豫審

○布告第四十六號 明治十四年
九月廿日

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發ス
ル事ヲ得ザル旨記載有之候ヘ共當分ノ内現行犯ノ場合ニ
限リ令狀ヲ發シ苦シカラズ (第七項)
右奉 勅旨布告候事

公判

通則

○布告第七十四號 明治十四年
十二月二十八日

治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス

右奉 勅旨布告候事

○司法省甲第七號 明治十四年
十二月二日

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者
ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布

達候事

○司法省丁第三十一號 明治十四年十二月十五日

裁判所

本年^本月甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納スル能ハサル者ニ限り無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト可相心得此旨相達候事

○布告第四十五號 明治十四年九月廿日

公訴私訴ニ係ル控訴上告及証人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候條此旨布告候事

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アル時ハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムベシ若シ豫納スルコト能ハザル時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サズ

豫審又ハ公判ニ付証人ヲ呼出サント請フ者アルトキハ裁判所ニ於テ其旅費日當等ノ金額ヲ算定シテ之ヲ豫納セシムベシ
若シ被告人旅費日當ヲ豫納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置クベシ
○司法省丁第九號 明治十五年一月二十日 裁判所
十四年甲第七號布達裁判言渡ノ謄本ヲ求ムル者上納金并ニ全年丁第二十六號使丁規則第十五條ノ違約金徴收ノ上ハ雜收入ニ組入月々本省へ納付候儀ト可心得此旨相達候事

違警罪公判

○布告第四十四號 明治十四年九月廿四日

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

重罪公判

○布告第一號 明治十五年一月九日

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辨護人ナクシテ辨論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效ナカルヘシト有之候得共其裁判所屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辨護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無效ノ限リニ在ラス

右奉 勅布告候事

商船内犯罪取扱規則

○布告第六十五號 明治十四年十二月十五日

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實参考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ

大 阪 控													
岡 山		洲 本	豐 岡	姫 路	神 戶		宮 津	園 部	大 阪				
玉 島	岡 山	洲 本	豐 岡	姫 路	篠 山	明 石	神 戶	宮 津	福 知 山	園 部	天 王 寺	中ノ 嶋	本 田
岡山縣		兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣	兵庫縣		京都府	京都府	大阪府				
備 中	備 前	備 前	淡 路	但 馬	播 磨	丹 波	播 磨	攝 津	丹 後	丹 波	河 內	攝 津	攝 津
小田後月下道窪屋淺口		岡山區全國八郡 加陽宇都		全國二郡	全國八郡	多可加西印南神東神西飾東飾西 任用穴栗揖東揖西赤穗	多紀水上	明石美囊加東加古	神戸區八部 菟原武庫川邊有馬	全國五郡	天田何鹿	船井南桑田	南區內西成內東成內住吉 茨田交野河內若江澁川高安志紀內
												西區北區內西成內	東區南區內北區內西成內 東成內島上島下能勢豐島 讚良

所													
京 都			相 川	高 田		長 岡		新 發 田		新 瀧	上 田		
伏 見	下 京	上 京	相 川	糸 魚 川	高 田	六 日 町	柏 崎	長 岡	村 上	新 發 田	新 瀧	岩 村 田	上 田
京都府			新瀧縣	新瀧縣		新瀧縣		新瀧縣		新瀧縣	長野縣		
山城			佐 渡	越 後		越 後		越 後		越 後	信 濃		
乙訓紀伊久世相樂綴喜宇治內			全國三郡	西頸城	東頸城	南魚沼	刈羽內	古志北魚沼三島刈羽內	岩船	北蒲原	新瀧區 西蒲原 中蒲原 南蒲原	北佐久	小縣 填科內 更級內
上京區愛宕內葛野內													
下京區愛宕內葛野內宇治內													

所		判									
松山	高松	中村	高知	脇町	徳島	田邊	和歌山	奈良	堺		
西松	丸高	中村	高知	脇町	徳島	田邊	和歌山	五奈	堺		輸島
條山	龜松	村	知	町	島	邊	山	條	良		
愛媛縣	愛媛縣	高知縣	高知縣	徳島縣	徳島縣	和歌山縣	和歌山縣	大阪府	大阪府		
伊豫	讃岐	土佐	土佐	阿波	阿波	紀伊	紀伊	大和	河内	和泉	
宇摩新居周布桑村越智	野間久米風早 下浮穴和氣伊豫温泉	那珂多度三野豊田鶴足阿野ノ内	大内寒川三木山田香川阿野ノ内 小豆	安藝香美長岡土佐吾川高岡	美馬三好麻植阿波	名東名西勝浦那賀海部板野	日高 東 西牟婁	和歌山區伊都那賀名草海部有田	宇智吉野葛上忍海高市ノ内葛下ノ内	廣瀬字陀高市ノ内葛下ノ内	添上添下山邊平群式上式下十市
											珠湯鳳至
											堺區全國四郡 大縣安宿志紀ノ内丹北丹南八上 古市石川錦部

審

裁		訴									
七尾	富山	金澤	福井	彦根	大津	津山					
七尾	魚津	富山	高岡	小松	金澤	大野	福井	敦賀	彦根	小濱	大津
石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	福井縣	福井縣	滋賀縣	滋賀縣	福井縣	滋賀縣	岡山縣	
能登	越中	越中	加賀	越前	越前	近江	近江	若狹	若狹	美作	
鹿島羽昨	下新川	射水ノ内礪波ノ内庄川以西	能美江沼	大野	南條今立丹生吉田阪井足羽	神崎愛知犬上阪田伊香 西淺井	遠敷大飯	滋賀野洲甲賀栗太蒲生高島	全國十二郡	上房阿賀哲多川上	

所 判 裁 訴 控 屋 古 名															
岐 阜	山 田	安 濃 津	岡 崎	名 古 屋	宇 和 島										
御 嵩	大 垣	岐 阜	山 田	上 野	四 日 市	安 濃 津	豐 橋	岡 崎	一ノ宮	熱 田	名 古 屋	宇 和 嶋	大 洲		
岐 阜 縣			三 重 縣			三 重 縣		愛 知 縣		愛 知 縣		愛 媛 縣			
	飛 彈	美 濃	志 摩	伊 勢	伊 賀	伊 勢	紀 伊	三 河		尾 張		伊 豫			
賀 茂 可 兒 土 岐 惠 那	海 西 石 津 池 田 大 野	益 田 內	厚 見 羽 栗 各 務 中 島 方 縣 山 縣 武 儀 郡 上	答 志 英 虞	多 氣 度 會	全 國 四 郡	桑 名 員 部 朝 明 三 重	河 曲 鈴 鹿 奄 藝 安 濃 飯 高 一 志 飯 野 南 北 牟 婁	八 名 南 北 設 樂 室 飯 渥 美	額 田 碧 海 幡 豆 東 西 加 茂	丹 羽 葉 栗 中 島	知 多 愛 知 內	海 西 名 古 屋 區 愛 知 內 東 西 者 日 井 海 東	北 東 南 宇 和	喜 多 西 宇 和

所 判 裁 訴 控 島 廣														
西 鄉	鳥 取	米 子	濱 田	松 江	山 口	尾 道	廣 島	高 山						
西 鄉	鳥 取	米 子	濱 田	今 町	松 江	萩	赤 間 關	岩 國	山 口	尾 道	三 次	廣 島	高 山	
島 根 縣	鳥 取 縣	鳥 取 縣	島 根 縣	島 根 縣	山 口 縣			廣 島 縣	廣 島 縣	岐 阜 縣				
隱 岐	因 幡	伯 耆	石 見	出 雲	長 門	周 防	長 門 防	備 後	備 後	安 藝	安 藝	飛 彈		
全 國 四 郡	全 國 八 郡	全 國 六 郡	全 國 六 郡	神 門 出 雲 橋 縫 飯 石	大 原 意 宇 能 義 秋 鹿 嶋 根 仁 多	大 津 阿 武 見 島	赤 間 關 區 厚 狹 豐 油	熊 毛 大 島 玖 珂	美 濃 都 濃 佐 波 吉 敷	安 那 神 石	御 調 甲 奴 世 羅 深 津 品 治 沼 隈 芦 田	三 次 奴 可 三 上 三 次 惠 蘇	加 廣 島 區 沼 田 安 藝 佐 伯 山 縣 高 宮 豐 田	大 野 吉 城 益 田 內

各裁判所位置及管轄區畫

裁判所																	
宮崎		鹿兒島			天草	熊本				中津							
仙臺	延岡	都城	宮崎	大島	水引	鹿兒島	天草	人吉	八代	山鹿	熊本	豆田	中津				
鹿兒島縣			鹿兒島縣			熊本縣	熊本縣				大分縣						
日向		大隅	大隅	薩摩	薩摩	肥後	肥後				豐後	豐前					
仙臺區 宮城名取 黒川		臼杵	那珂ノ内 諸縣ノ内		宮崎 兒湯 諸縣ノ内 那珂ノ内	大島	薩摩 高城 伊佐 甌島 日置ノ内 出水ノ内	始羅 贈 啖 肝 屬 熊毛 大隅 桑原 馭 謨	鹿兒島 日置ノ内 穎 姓 出水ノ内 揖 宿 川 邊	谷山 阿多 給 黎	天草	求麻	八代 荻 北	山鹿 山本 菊池 玉名	熊本區 飽田 託摩 宇土 合志 益城 阿蘇	玖珠 日田	下毛 字 佐

長崎															
大分		福岡		嚴原	福江	平戸	佐賀		長崎						
杵築	竹田	佐伯	大分	小倉	久留米	岡福	嚴原	福江	平戸	唐津	佐賀	島原	長崎		
大分縣		福岡縣		長崎縣	長崎縣	長崎縣	長崎縣		長崎縣		長崎縣				
豐後		筑前	豐前	筑後	筑前	對馬	肥前	肥前	肥前	肥前	肥前				
東 速見ノ内		直入 大野ノ内		南海部 北海部ノ内 大野ノ内		企救 田川 京都 中津 城上 毛 遠賀 鞍手	全國十郡	福岡區 席田 粕屋 宗像 穗波 早良 嘉麻 上座 夜須 御笠 志摩 悟土 那珂	全國二郡	南松浦 西彼杵ノ内	全國二郡	北松浦 西松浦	東松浦 基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小城 杵島 藤津	南高來	長崎區 高來 東彼杵 西彼杵ノ内

所判裁訴控館函		所判		
八戶	弘前	函館	大曲	磐井
八戶	青森 弘前	壽都 福山 江刺 函館	大曲	磐井
青森縣	青森縣	開拓使	秋田縣	岩手縣
陸奥	陸奥	後志 渡島 後志 渡島 釧路 渡島 釧路	羽後 陸奥 羽後	陸奥 陸奥
三戸上北ノ内	北津輕 東津輕 中津輕 西津輕	島牧 壽都 歌葉 磯谷 津輕 福嶋 久遠 太櫛 瀬棚 奧尻 檜山 爾志 山越 龜田 上磯 茅部 仙北 平鹿 雄勝 鹿角 山本 北秋田 由利 川邊 南秋田 氣仙 陸奥 陸奥 陸奥 陸奥	陸奥 陸奥 陸奥 陸奥	陸奥 陸奥 陸奥 陸奥

院														
裁		訴		控		城		宮		臺				
盛岡	酒田	山形	米澤	若松	平川	白川	福島	仙臺						
宮古	盛岡	酒田	新庄	山形	米澤	若松	平川	白川	中村	福島	大河原	石卷	古川	
岩手縣	山形縣	山形縣	山形縣	福島縣	福島縣	福島縣	福島縣	宮城縣						
陸奥	陸奥	羽後	羽後	羽前	羽前	越後	磐城	磐城	磐城	磐城	岩代	磐城	陸奥	陸奥
北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥	東北 陸奥 陸奥	北中 陸奥 陸奥

正誤 明治十四年十一月十九日

本年^十第五十三號布告各裁判所位置及管轄區畫表中

松江始審裁判所行中〔今町〕ハ〔今市〕ノ誤

函館治安裁判所行中〔龜田〕ノ上〔函館區〕ノ三字ヲ脫ス

福山治安裁判所行中〔津輕福嶋〕ハ〔松前〕ノ誤

○司法省丙第十二號^{明治十四年九月廿二日} 府^{警視廳} 縣^{（東京府沖繩縣ヲ除ク）}

今般第四十八號ヲ以テ違警罪裁判ハ當分三府五港市區ヲ

除クノ外府縣警察署又ハ警察分署ニ於テ裁判可致旨御布

告相成候ニ付テハ各警察署并ニ警察分署所在名稱及ヒ管

轄區畫左ノ雛形通取調可届出此旨相達候事

何警察署	違警罪	何郡	何區何町何村
管轄		何郡	同 同 同

何警察署 何分署 同前

○布告第五十六號^{明治十四年十月七日}

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所^{即テ違}

判始審裁判所^{即テ輕罪}ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴

及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一

月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○布告第五十七號^{明治十四年十月七日}

伊豆七島裁判事務當分該島吏へ民事ハ百圓以下及勸解并

ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以

上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨ

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○布告第七拾六號 明治十四年十二月二十八日

本年^十第五拾三號布告裁判所名稱區劃表始審ノ行中相川
豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大曲八戸ノ
名稱ヲ削除シ其管轄ハ相川ヲ新瀉ニ豐岡ヲ姫路ニ洲本ヲ
神戸ニ田邊ヲ和歌山ニ脇町ヲ德島ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ
松江ニ平戸福江嚴原ヲ長崎ニ天草ヲ熊本ニ大曲ヲ秋田ニ
八戸ヲ弘前ニ合併ス
右奉 勅旨布告候事

○布告第七十七號 明治十四年十二月二十八日

本年^十第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノ
ニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布

告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江
嚴原天草大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判
所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十
四號布告但書ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○布告第七拾八號 明治十四年十二月二十八日

重罪裁判所管轄區畫別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日
ヨリ之ヲ施行ス

但治罪法第七十二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一
ヶ所又ハ數ヶ所開廳スヘシ

右奉 勅旨布告候事

別紙

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所
管轄 東京始審裁判所管轄ノ地方

神奈川重罪裁判所
同 横濱始審裁判所管轄ノ地方

新潟重罪裁判所
同 新潟 高田 長岡 新發田始審裁判所管轄ノ地方

埼玉重罪裁判所
同 浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地方

千葉重罪裁判所
同 千葉 木更津始審裁判所管轄ノ地方

栃木重罪裁判所
同 栃木 宇都宮始審裁判所管轄ノ地方

群馬重罪裁判所

同

茨城重罪

裁判所

前橋始審裁判所管轄ノ地方

山梨重罪

裁判所

水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地方

静岡重罪

裁判所

甲府始審裁判所管轄ノ地方

長野重罪

裁判所

静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地方

大阪重罪

裁判所

松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地方

京都重罪

裁判所

大阪 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方

兵庫重罪

裁判所

京都 園部 宮津始審裁判所管轄ノ地方

神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方

和歌山重罪裁判所	同	和歌山始審裁判所管轄ノ地方
滋賀重罪裁判所	同	大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方
德島重罪裁判所	同	德島始審裁判所管轄ノ地方
岡山重罪裁判所	同	岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方
福井重罪裁判所	同	福井始審裁判所管轄ノ地方
石川重罪裁判所	同	金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方
高知重罪裁判所	同	高知 中村始審裁判所管轄ノ地方
愛媛重罪裁判所	同	

長崎重罪裁判所	同	松山 高知 宇和島始審裁判所管轄ノ地方
福重罪裁判所	同	長崎 佐賀始審裁判所管轄ノ地方
熊本重罪裁判所	同	福島始審裁判所管轄ノ地方
大分重罪裁判所	同	熊本始審裁判所管轄ノ地方
鹿兒島重罪裁判所	同	大分 中津始審裁判所管轄ノ地方
函館重罪裁判所	同	鹿兒島宮崎始審裁判所管轄ノ地方 沖繩縣管轄ノ地方
青森重罪裁判所	同	函館始審裁判所管轄ノ地方 開拓使根柢室本支廳管轄ノ地方

愛知重罪 同裁判所	同 弘前始審裁判所管轄ノ地方
岐阜重罪 同裁判所	名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方
三重重罪 同裁判所	岐阜始審裁判所管轄ノ地方
宮城重罪 同裁判所	安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方
福島重罪 同裁判所	仙臺始審裁判管轄ノ地方
磐手重罪 同裁判所	福島 若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方
山形重罪 同裁判所	盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方
	山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方

秋田重罪 同裁判所	同 秋田始審裁判所管轄ノ地方
廣島重罪 同裁判所	廣島 尾道始審裁判所管轄ノ地方
山口重罪 同裁判所	山口始審裁判所管轄ノ地方
島根重罪 同裁判所	松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方
鳥取重罪 同裁判所	鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

明治十四年十月第五拾三號布告各裁判所位置及管轄區畫表

中

松本始審裁判所管内
飯田治安裁判所ノ行中(西筑摩ノ内)ノ五字ハ衍

鹿兒島始審裁判所管内

鹿兒島治安裁判所ノ行中〔出水ノ内〕ノ四字ハ衍

水引 同 出水ノ下〔ノ内〕ノ二字ハ衍

仙臺始審裁判所管内

古川治安裁判所ノ行中〔遠田〕ノ二字ヲ脱ス

石卷 同 〔遠田〕ノ二字ハ衍

大河原同 〔岩代伊達ノ内〕ノ六字ハ衍

福島始審裁判所管内

福島治安裁判所ノ行中〔伊達ノ下ノ内〕ノ二字ハ衍

明治十五年一月二十三日 内閣書記官

○布告第七拾九號 明治十四年十二月二十八日

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年十月第五十三號ヲ以テ

布告候處北海道 函館始審裁判所管内ヲ除ク 並ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ
通其所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ
爲スヘシ

但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴
裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○太政官布達第二號 明治十四年十二月二十八日

本年十月第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ
區畫改正候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ
控訴裁判所地方裁判所トアルハ始審裁判所區裁判所トアル
ルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト心得ヘシ
右布達候事

○司法省丁第三號 明治十五年一月十二日

控訴裁判所
始審裁判所

人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ノ受否又ハ判決見込ニ付現今
伺出ニ係ル件中客年第五拾三號布告ニ依リ他ノ管轄裁判
所ニ属スヘキ分ハ當省ヨリ直ニ其管轄裁判所ニ移シ處
分セシメ候條此旨相達候事

被告人責付手續

○布告第四十七號 明治十四年九月二十日

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フ
ベシ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニ
テモ呼出ニ應シ出廷セシムベキノ証書ヲ其裁判所書記
局ニ差出サシムベシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前
ニ其通知ヲ爲スベシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セザ
ル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スベシ

所属代言人規則

○司法省甲第八號 明治十四年十二月二日

大審院諸裁判所屬代言人規則別紙之通相定候條此旨布達
候事

所属代言人規則

第一條 治罪法中所屬代言人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁
判所所在ノ地ニ住居スル免許代言人ヲ云

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代言人辨護人ハ

正當ノ事由ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得

第三條 代言又ハ辨護受任中代言免許満期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辨護ヲ擔當ス可シ

第四條 代言又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコトヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辨護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス可シ
總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サス

雜則

裁判所順次

○司法省丁第十六號 明治十四年十月八日 大審院 裁判所

裁判所順次別紙ノ通相達候事

裁判所順次

大審院

控訴裁判所

東京 大阪 長崎 函館 名古屋 宮城 廣島

始審裁判所

東京 横濱 新潟 浦和 千葉 熊谷 土浦 木更津
枋木 宇都宮 前橋 水戸 甲府 静岡 上田 長崎
高田 濱松 松本 長岡 新發田 相川
以上東京控訴裁判所管内
京都 大坂 神戸 堺 奈良 和歌山 姫路 大津

園部	彦根	宮津	洲本	田邊	德島	岡山	豐島	
津山	脇町	高松	福井	金澤	富山	七尾	高知	
松山	中村	宇和島	以上大坂控訴裁判所管内					
長崎	佐賀	平戸	福岡	熊本	福江	中津	大分	
天草	嚴原	鹿兒島	宮崎	以上長崎控訴裁判所管内				
函館	弘前	八戸	以上函館控訴裁判所管内					
名古屋	岐阜	岡崎	安濃津	山田	高山			
以上名古屋控訴裁判所管内								
仙臺	磐井	福島	米澤	若松	山形	盛岡	白川	

平	大曲	秋田	酒田				
以上宮城控訴裁判所管内							
廣島	尾道	山口	濱田	松江	米子	鳥取	西郷
以上廣島控訴裁判所管内							
治安裁判所							
日本橋	京橋	下谷	淺草	麴町	四ッ谷	芝	
本郷	本所	品川	横濱	小田原	八王子	浦和	
千葉	八日市場	熊谷	大宮	土浦	下妻	木更津	
枋木	宇都宮	前橋	高崎	太田	水戸	甲府	
谷村	静岡	沼津	下田	上田	岩村田	長野	
飯山	高田	糸魚川	濱松	掛川	松本	飯田	
上諏訪	大町	福島	新瀉	長岡	柏崎	六日町	新發田

村上

相川

以上東京控訴裁判所管内

上京

下京

伏見

中島

本田

天王寺

神戸

明石

篠山

堺

五條

奈良

和歌山

姫路

大津

園部

福知山

彦根

宮津

洲本

田邊

德島

岡山

高梁

玉嶋

豊岡

津山

脇町

高松

九龜

福井

大野

敦賀

小濱

金澤

小松

高岡

富山

魚津

七尾

輪島

高知

松山

大洲

西條

中村

宇和島

以上大阪控訴裁判所管内

長崎

島原

佐賀

唐津

平戸

福岡

久留米

小倉

熊本

山鹿

八代

人吉

福江

中津

豆田

大分

佐伯

竹田

杵築

天草

嚴原

鹿兒島

水引

大島

宮崎

都城

延岡

以上長崎控訴裁判所管内

函館

福山

江川

壽都

弘前

青森

五所河原

八戸

以上函館控訴裁判所管内

名古屋

熱田

一宮

岐阜

大垣

御嵩

岡崎

豊橋

安濃津

四日市

上野

山田

高山

以上名古屋控訴裁判所管内

仙臺

古川

石巻

大河原

磐井

福島

中村

米澤

若松

山形

新庄

盛岡

宮古

白川

平

大曲

秋田

本庄

能代

酒田

以上宮城控訴裁判所管内

- 廣島 三次 尾道 山口 岩國 赤間關 萩
- 濱田 松江 今町 米子 鳥取 西郷

以上廣島控訴裁判所管内

司法省正誤十月二十八日

當省本年〔十月〕丁第十六號達中正誤

今町 今市ノ誤

使丁規則

○司法省丁第廿六號明治十四年十二月五日

大審院 諸裁判所

使丁規則別冊ノ通相定候條明治十五年一月一日ヨリ施行致スヘク此旨相達候事

使丁規則

第一條 各裁判所書記局ハ刑事民事ニ關スル召喚狀其他

書類ヲ送達セシムル爲メ其請負人ヲ定メ之ヲ使丁取締トス使丁取締ハ一人トス但場所ニ因リ二人以上ヲ命スルコトアル可シ

第二條 使丁ハ使丁取締之ヲ撰ヒ其氏名ヲ書記局ニ届出鑑札ヲ受ルモノトス使丁ノ人員ハ使丁取締適宜之ヲ定メ書記局ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 使丁取締ハ送達ノ事ニ付總テ其責ニ任スルモノトス

第四條 使丁取締ハ常ニ裁判所ニ在テ送達ノ事ヲ取扱フ可シ

第五條 使丁ハ送達ヲ爲ス時裁判所ノ鑑札ヲ帶行ス可シ

第六條 送達ヲ爲スニハ其法律規則ニ從フ可シ

第七條 使丁取締及ヒ使丁ハ訴訟ニ付代人トナリテ訟廷ニ出ルヲ許サス

第八條 送達ノ事ニ關シ他人ニ損害ヲ被ラシメタル時ハ使丁取締其償ヲ擔當ス可シ

但使丁ノ過失懈怠ニ由ル時ハ使丁取締ハ之ニ對シ更ニ其償ヲ求ムルヲ得

第九條 送達賃錢ハ書類ノ大小ニ拘ハラヌ一通ニ付一里五錢以下トス

賃錢ノ定限ハ使丁取締之ヲ申立書記局之ヲ決シ且送達書ニ其賃錢高ヲ附記ス可シ

第十條 賃錢ノ定限ハ其取扱所ニ貼示シ三日以上新聞紙ニ掲載シ又其他ノ方法ヲ以テ公告ス可シ

第十一條 刑事ニ付シテノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ルモノヨリ之ヲ拂置ク可シ

但左ノ場合ニ於テハ書記局ヨリ之ヲ拂置ク可シ

一 檢察官又ハ裁判官ヨリ呼出ス証人鑑定人通事ノ呼出狀

二 檢察官ノ控訴申立ヲ被告人ヘノ通知及ヒ呼出狀

三 檢察官ヨリ被告人ヘ送達スル上告申立書及ヒ趣意書

第十二條 刑事附帶ノ私訴及ヒ民事ニ付テノ送達賃錢ハ總テ其送達ヲ請求スル者ヨリ之ヲ拂フ可シ

第十三條 送達賃錢ニ付テノ訴訟ニ其書類ヲ發シタル裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第十四條 使丁取締ハ書類送達ヲ正實ニ取扱フ可キ旨ノ書面ヲ書記局ニ差出ス可シ

第十五條 使丁取締及使丁此規則ニ違背シタル時裁判所書記局ハ使丁取締ニ左ノ條件中ニテ相當ノ言渡ヲ爲ス可シ

- 一 二十圓以下ノ違約金ヲ納メシムルコト
- 二 解職セシムル事
- 三 事情重キ者ハ違約金ヲ納メ解職セシムルコト

第十六條 使丁取締各ルニハ其裁判所所在地ニ家屋ヲ有シ滿二十一才以上ノ者ヲ書記局ノ試験ヲ經ルコトヲ

要スニ關スル職事ハ其用ハ本職ニ限ラズテ之ヲハシメテ使丁取締タルニハ身元保証ヲシテ金五十圓以上ノ價格アル公債証書地券又ハ銀行其他官許アル株券証書ヲ書記局ニ納付可シ

但此保証金ハ解職ノ時下戻ス可シ

第十七條 試験ハ書記三名以上ニ行テ之ヲ爲ス可シ但書記不足ナル時ハ雇員以ツテ之ニ充ツ可シ

試験ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 使丁規則
- 二 請負郡村ノ地名又ハ里數
- 三 普通書簡ノ書類

第十八條 實決ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ身代限リテ處

分ヲ受ケ未タ辨償ヲ終ラサル者ハ使丁取締又ハ使丁タルコトヲ許サス

書記局其他訟廷等ノ掌務心得

○司法省丁第十八號明治十四年十月十日 大審院 裁判所

書記局其他訟廷等ノ心得書別紙ノ通相達候事

書記局其他訟廷等ノ掌務心得

第一條 書記局諸般ノ事務ハ各員輪轉之ヲ執リ豫メ其主

掌ヲ定メス

第二條 訟廷ノ取締被告人扣所ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシ

テ之ヲ掌ラシムヘシ

第三條 訴訟口詰ハ雇員ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他

訟庭ニ關スル雜事ノ使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 門候ヲ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ

置クトキハ雇員又ハ小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムヘシ

但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス

第五條 宿直ハ等外吏員雇員等ニテ之ヲ務メシメ在宅當

番退廳後ハ判任官ニテ順次之ヲ務メシムヘシ

但東京裁判所ハ此限ニ非ラス

印章

○司法省丁第二十一號明治十四年十一月十五日 大審院 諸裁判所

法律上判事檢事書記等署名捺印ヲ要スル節相用フヘキ印

章ハ左ノ雛形ニ照シ各自彫刻シ費用ハ官費支拂ニ相立候

儀ト可心得此旨相達候事

勅任方九分曲尺

奏任方七分曲尺

判任方六分曲尺

官
氏名

書記ハ裁判所書記某下刻ス字体ハ篆楷適宜タルヘシ但認

易キヲ要ス

○司法丁第廿七號 明治十四年 十二月九日

大審院
裁判所

本年第五十四號公布ニ依リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所
ヲ開ク其管轄輕罪裁判所ノ名稱ヲ用ヒ其印ヲ捺シ某
治安裁判所ニ於テスルハ附記スヘシ左ニ雛形相添此旨
相達候事

書式雛形又ハ小冊ニ以テ之ヲ發シ
門外ニ置キテ之ヲ入主子治安裁判所ニ送ル

印章雛形

橫濱輕罪
裁判所

橫濱輕罪裁判所

○司法省丁第三十號

明治十四年 十二月十四日

裁判所

裁判所印章ノ儀來明治十五年一月二日以後左ノ通改定候
條各廳ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此旨相達候事

印章雛形

方曲一尺一寸五分

何々
控訴
裁判所

控訴
始審
治安
輕罪
違警罪
裁判所
各一類ヲ彫刻ス

字体ハ篆書ヲ用ヒ認易キヲ要ス且文字ノ數ニ據リ或ハ
「之印」ノ字ヲ刻スルモ妨ケナシ

○司法省丙第十六號 明治十四年十二月五日 府 大審院 縣 裁判所 警視廳
治罪法中犯人証人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ拇印爲致候義ト心得ヘシ此旨相達候事

公文往復

○司法丁第第二十九號 明治十四年十二月十三日

裁判所

郡區長へ公文往復ノ儀ニ付明治十三年本省丁第十一號ヲ以テ相達置候旨モ有之處來明治十五年一月一日以後ハ都テ裁判所ノ名ヲ以テ往復致スヘク此旨相達候事

治安裁判所始審裁判所權限

○布告第八十三號 明治十四年十二月廿八日

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス
右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第拾九號布告控訴手續ニ照

準スヘシ

○司法省丁第拾號 明治十五年一月廿三日

控訴裁判所
始審裁判所

客年第八拾三號布告ヲ以テ治安裁判所及始審裁判所ノ權
限相定メラレ候ニ付テハ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴
ハ始審裁判所ニ於テ受理スヘキハ勿論ニ候處右布告ヲ知
得ザル前ニ於テ舊區裁判所若クハ治安裁判所ノ裁判ニ
テ始審裁判所ニ控訴スヘキモノニ對シ控訴裁判所ニ控訴
スル者ハ控訴裁判所ニ於テ之ヲ受理シ管轄始審裁判所ニ
引繼クヘキ儀ト心得ヘシ此旨爲念相達候事

○布告第五號 明治十五年一月二十八日

明治十四年^{十二月}第八拾三號ヲ以テ民事裁判權限ノ儀布告候

處當分ノ内西郷相川豐岡洲本田邊脇町高山平戸福江巖原
天草大曲八戸大島治安裁判所ニ於テ民事ノ訴訟ハ始審裁
判所ノ權限ヲ以テ裁判スヘシ

但請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ件ニ關スル控訴ハ管
轄始審裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

右奉 勅旨布告候事

令狀様式

○司法省丁第廿八號 明治十四年十二月十二日

大審院
裁判所

治罪法中ニ掲ケタル送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收
監狀及宣誓書式別紙ノ通相定候條右ニ照準ス可シ此旨相
達候事

用紙美濃ノ類 輪郭寸法凡

堅七寸五分 令狀様式中()ヲ附セ
横五寸四分 シモノハ朱字トス

送 達 書

(一)送達スヘキ書名)

(壹册)

(一同

(壹通)

右使丁ヲ以テ(何府縣下何町又ハ何
國何郡何村何番地何某へ)送達セシ
ムル者也

明治 年 月

何裁判
所之印

(何)裁判所

書記(氏名印)

右致送 達候也

使丁(氏名印)

受取人ノ署名 捺印若シ能ハ サル時ハ其事 由	送達シタル 月日時	送達シタル 場所	親屬雇人若ク ハ戸長へ書類 ヲ渡シタル時 ハ其事由

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

送達書

(一送達スヘキ書名) (壹册)

(一同) (壹通)

右使丁ヲ以テ(何府縣下何町又ハ何國何郡何村何番地何某へ)送達セシムル者也

明治 年 月 何裁判所之日之印

(何裁判所)

書記(氏名印)

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若クハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事由

右致送達候也

使丁(氏名印)

呼出狀

(住所身分職業)

(氏名)

右(云々)ノ事件ニ付證人トシテ相尋ル儀有之來ル(何月日時何)所ニ出頭可致者也
但同日時出頭セサルニ於テハ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコトアル可シ

明治 年 月 何裁判所之日之印

(何裁判所)

豫審判事(氏名印) 書記(氏名印)

此呼出狀ハ出頭ノ節書記局ニ差出ス可シ

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若クハ戸長へ渡シタル時ハ其事由

右之通取扱候也

使丁(氏名印)

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

呼出狀

此呼出狀ハ出頭ノ節
書記局ニ差出ス可シ

(住所身分職業)

(氏名)

右(云々)ノ事件ニ付證人トシテ相
尋ル儀有之來ル(何月日時何)所ニ
出頭可致者也
但同日時出頭セサルニ於テハ罰
金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルコ
トアル可シ

明治 年 月

何裁判
所之日
時之印

(何裁判所)

豫審判事(氏名印)

書記(氏名印)

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若シハ戸長へ渡シタル時ハ其事	右之通取扱候也 明治 年 月 日 使丁(氏名印)
--------------------	----------	---------	--------------------	--------------------------------

召喚狀

(住所身分職業)

(氏名)

右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之(何月日時)當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月

何裁判
所之日
時之印

(何裁判所)

豫審判事(氏名印)

書記(氏名印)

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事	送達シタル月日時	送達シタル場所	親屬雇人若シハ戸長へ書類ヲ渡シタル時ハ其事	右之通取扱候也 明治 年 月 日 使丁(氏名印)
--------------------	----------	---------	-----------------------	--------------------------------

召喚状

(住所身分職業)

書 號 (氏名)

右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之(何月日時)當裁判所ニ出頭可致者也

明治 年 月

何裁判所之日時

氏(何)裁判所

豫審判事(氏名印)

書 記 (氏名印)

(住所身分職業)

書 號 (氏名)

受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

送達シタル月日時

送達シタル場所

親屬雇人若クハ片長ハ書類ヲ渡シタル時

ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

使丁(氏名印)

檢事官印 勾引状

(住所身分職業)

書 號 (氏名)

右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當裁判所へ勾引ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月

何裁判所之日時

(何)裁判所

豫審判事(氏名印)

書 記 (氏名印)

(若シ氏名分明ナラサルル件ハ容貌体格等)

勾引シタル被告ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其事由

執行シタル月日時

執行シタル場所

執行ノ手續(被告人ニ正本ヲ示シ捺本ヲ下付ス)

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ其事由

勾引スルノ能ハサル時ハ其事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

(巡查又ハ憲兵氏名印)

檢事官印 勾引狀

(住所身分職業)

(氏名)

(若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等)

右(云々)ノ事件ニ付訊問ノ筋有之當
裁判所へ勾引ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜
索ス可シ

明治 年 月

何裁判
所之日時

(何)裁判所

豫審判事 (氏名印)

書記 (氏名印)

勾引シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ル時ハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
(被告人ニ正本ヲ示シ
賸本ヲ下付ス)

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其

由

勾引スルコト能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日

(巡查又ハ憲兵氏名印)

檢事官印 勾留狀

(住所身分職業)

(氏名)

(若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等)

右(云々)ノ事件ニ付治罪法第百二十
六條ノ規則ニ從ヒ(何所)監倉へ勾留
ス可キ者也

但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索
ス可シ

明治 年 月

何裁判
所之日時

(何)裁判所

豫審判事 (氏名印)

書記 (氏名印)

勾留シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ル時ハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
(被告人ニ正本ヲ示
シ賸本ヲ下付ス)

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其

由

勾留スルコト能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日時

(巡查又ハ憲兵氏名印)

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

檢事官印 勾留狀

(住所身分職業)

(氏名)

(若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等)

右(云々)ノ事件ニ付治罪法第百二十
六條ノ規則ニ從ヒ(何所)監倉へ勾留
ス可キ者也
但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索
ス可シ

明治 年 月

何裁判
所之日時
所之印

(何)裁判所

豫審判事 (氏名印)

書記 (氏名印)

勾留シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ル時ハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
(被告人ニ正本ヲ示
シ謄本ヲ下付ス)

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
事由

勾留スルニ能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日時

(巡查又ハ憲兵氏名印)

檢事官印 收監狀

(住所身分職業)

(未遂犯ニ付減等○未丁年ニ付減等
自首ニ付減等○再犯ニ付加重) (氏名)

(若シ氏名分明ナラサ
ルハ容貌体格等)

右(云々)ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル
處本罪刑法第(何)條ニ該ル可キ者ト
思料ス依テ檢事ノ意見ナ聽キ(何所)
監倉ニ收監ス可キ者也
但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜
索ス可シ

明治 年 月

何裁判
所之日時
所之印

(何)裁判所

豫審判事 (氏名印)

書記 (氏名印)

收監シタル被
告人ノ署名捺
印若シ能ハサ
ル時ハ其事由

執行シタル
月日時

執行シタル
場所

執行ノ手續
(被告人ニ正本ヲ示
シ謄本ヲ下付ス)

家宅搜索ヲ爲
シタル時ハ其
事由

收監スルニ能
ハサル時ハ其
事由

右之通取扱候也

明治 年 月 日時

(巡查又ハ憲兵氏名印)

檢事官印 收 監 狀

(住所身分職業)

(未遂犯ニ付減等○未丁年ニ付減等 (氏名) 自首ニ付減等○再犯ニ付加重)

(若シ氏名分明ナラサルハ容貌体格等)

右(云々)ノ事件ニ付取調ヲ爲シタル處本罪刑法第(何)條ニ該ル可キ者ト思料ス依テ檢事ノ意見ナ聽キ(何所)監倉ニ收監ス可キ者也 但本人潛匿シタル時ハ家宅ヲ搜索ス可シ

明治 年 月

何裁判 所之日時 印

(何)裁判所

豫 審 判 事 (氏名印)

書 記 (氏名印)

收監シタル被 告人ノ署名捺 印若シ能ハカ ル時ハ其事由	執行シタル 月日時	執行ノ手續 (被告人ニ正本ヲ示 シ贖本ヲ下付ス)	家宅搜索ヲ爲 シタル時ハ其 事由	收監スルノ能 ハサル時ハ其 事由
--------------------------------------	--------------	--------------------------------	------------------------	------------------------

右之通取扱候也

明治 年 月 日時
(巡查又ハ憲兵氏名印)

宣 誓 書

(何々)ノ事件ニ付愛憎畏懼

ノ心ヲク總テ正實ニ (通譯) 陳述 鑑定

ス可キヲ誓フ

明治 年 月 日

(通事) 証人 鑑定人 (氏名印)

○司法省丙第十七號 明治十四年十二月十九日 警視廳 (東京府ヲ除ク)
治罪法令狀様式別紙丁第廿八號ノ通大審院裁判所へ相達候條其旨可相心得且司法警察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取計フ可シ此旨相達候事

(別册前ニ出ツ)

諸表

○司法省丁第十四號 明治十四年九月廿六日 大審院 諸裁判所

明治十年丁第五十六號ヲ以テ相達候訟獄審理表雛形ハ相廢シ更ニ別紙之通一年度一表ニ取纏メ翌年二月限り可差出此旨相達候事

但十三年度分入用ニ付本年十二月中取調可差出候事

(別紙畧ス)

○司法省丁第三十三號 明治十四年十二月廿三日

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通可心得此旨相達候事

刑事裁判言渡アリタルキハ治罪法第四百六十四條ニ掲クル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戸長ニ通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ
犯罪人ノ前科取調ヲ要ルキハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ

諸表

既決犯罪表

イ 號

何 裁 判 所

イ 號 目 録

伊藤某
生駒某
飯塚某

一丁

二丁

三丁

何裁判所既決犯罪表

(伊藤某)

氏名	年 齡	職 業	住 所	出生ノ地	本 籍	罪 名	刑 名	犯 數	號
	(何年何月)	(何々)	(何府何郡何町)	(同上)	(同上)	(竊盜)	(重禁錮何年或ハ何月)	(初犯或ハ再犯)	
<small> 裁判言渡ヲ爲シタル年月日 (何年何月何日) 對審閣席區別 (對審裁判或ハ關席裁判) </small>									

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ關席裁判アリタル時其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便ス可シ表中ノ未書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

○司法省丙第十八號

明治十四年十二月廿三日

府 縣

刑事裁判ノ宣告犯人本貫へ通知ノ義裁判所へ別紙丁第三十三號ノ通相達候條此旨爲心得相達候事

(別紙畧ス)

○司法省丙第十九號

明治十四年十二月十九日

警視廳 府 縣

(東京府ヲ除ク)

警察署ニ於テ審判シタル違警罪事件表並既決犯罪表別紙様式ニ照準シ調成ス可シ尤違警罪事件表ハ治罪法第五十二條ニ從ヒ差出ス儀ト可心得此旨相達候事

表中(一)ヲ附シタルモノハ朱字トス
 (治罪法第五十二條違警罪事件表式) 用紙美濃ノ類

明治何年何月中何警察署(警察分署)違警罪既決未決事件表

件數	違警罪					未濟		
	總數	既濟	舊受	新受	無罪			
何月何日調			免訴	刑ノ管轄違	棄却	消滅	願下	
			言渡	言渡				
何月何日調								
署長	官氏名印			官氏名印				
何月何日調								
官氏名印								

(檢察官意見アル片ハ表末ニ記載ス可シ但シ長文ニ涉ル片ハ別紙ニ記スルモ可ナリ左ニ一二ノ文例ヲ示ス)
 (犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口幅曠スルニ原由セリト思考ス)
 (又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノトニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラステ常ニ復ス可シト思考ス)

(又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執ルニ能ハサルニ由ル)
 (又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラスシテ増加ヲ見ルニ至ル可シト思考ス)
 (署長意見アラハ亦前文ニ準ス)

何警察署(警察分署)既決犯罪表

(伊藤某)

氏名											
年 齡	(何年何月)										
職 業	(何々)										
住 所	(何府何郡何町)										
出生ノ地	(同上)										
本 籍	(同上)										
罪 名	(竊盜)										
刑 名	(重禁錮何年或ハ何月)										
犯 數	(初犯或ハ再犯)										
裁判言渡ノ年月日	(何年何月何日)										
對審席區別	(對審裁判或ハ關席裁判)										

(此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便シテ可シ
表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準テ可シ)

○司法省丁第三十四号 明治十四年十二月廿三日 大審院 裁判所

治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙ノ通相定候條右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相達候事

但明治十年丙第十七号達犯罪未決件數表丁第六十二号達犯罪糺問表ハ來十五年一月一日ヨリ廢止候事

(別紙畧ス)

○司法省丙第一號 明治十五年一月十六日 警視廳 (東京府ヲ除ク)

今般刑法治罪法實施ニ付テハ今後刑事裁判統計表之材料

諸表

ニ供候間別紙表式及書例ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ違警罪事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出ス可ク候條此段相達候事

別紙

違警罪裁判所

公判第一欄 此表ハ違警罪ノ公判ニ係ル件數及人員ヲ記載スル者トス

第一欄

此欄ニハ刑法第四百二十五條以下ノ各項ニ從テ犯罪ノ性質ヲ詳カニ記載スル者トス此他各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪モ亦實際ノ罪狀ヲ詳明ニ記載スルヲ要ス以下各表中犯罪ノ性質ヲ記スヘキ欄ハ皆之ニ倣フヘシ但初メニ男ハ罪狀ヲ條列シ次ニ女ノ罪狀ニ及ブヘシ

第二欄

此欄ニハ表目ノ如ク一項ニ前年ヨリ越高ノ件數アレハ之ヲ記シ本年受理ノ件中一節ハ治罪法第三百二十一條ノ一項ニ係ル者ニシテ三節以下ハ同條二項ヲ區分シテ記載スル者ナリ

第三欄

此欄ニハ前年ノ殘件中ノ人員ト本年受理中ノ人員トヲ區分記載スヘシ

第四欄

此欄ニハ對審ト缺席裁判トノ人員ヲ區分記載スヘシ

第五欄

此欄ニモ亦書例ヲ舉ル如ク裁判言渡ニ從テ被告人員ヲ記

載スヘシ

違警罪裁判所

公判第二表 此表ハ認廷内ニ於テ犯セシ違警罪ノ公判
係ル件數及ヒ人員ヲ記載スル者トス

此表ハ第二欄ノ二項ヲ除ク外總テ第一表ノ例ニ依ルヘシ

別號第一表 此表ハ科料言渡及裁判費用ニ
係ル總數ヲ記載スル者トス

此表ノ書例ハ既ニ各條ニ付テ説明スルカ如シ但証人等ノ
科料言渡ヲ取消シタル者ハ其人員及金額ヲ記スルニ及ハ
ス

別號第二表 此表ハ囑託ヲ受ケシ總數ヲ舉テ
其執行時間ヲ區分スル者トス

第一欄

此欄ハ既ニ書例ヲ舉ル如シ然モ若シ三月以上ニ至ル者ア
ル時ハ其箇條ヲ附加スヘシ

第二欄以下

第二欄ニハ前年ノ殘件ト本年ノ新件トヲ區分シテ總件數
ヲ舉ル者トス但本表欄外既ニ説明セシ期限ニ從テ記載ス
ルヲ要ス即チ前年ノ項中囑託ノ到着セシヨリ本年一月
十日マテニ執行報知シテ其日數十五日トナルノ類ハ之ヲ
上欄第二ケ條ノ下ニ記スルカ如シ以下ノ書例皆之ニ準ス
ヘシ (別表畧ス)

○司法省丁第五號 明治十五年 始審裁判所
一月十六日

今般刑法治罪法實施ニ就テハ今後刑事裁判統計表ノ材料
ニ供候間別紙表式ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一
日マテノ豫審事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出ス
ヘク候條此旨相達候事

但治罪法ニ拘ハラズ從前ノ規則ニ從ヒ處分セシ者ハ件數及人員ノミヲ別紙ニ記載シ可差出又公判ノ條件ハ追テ相達候マテハ從前ノ箇條ニ從テ取調置クヘキ事

(別紙表式畧ス)

○丁第八號 明治十五年一月十七日

大審院 裁判所

明治十四年下第三十四號達治罪法表式第四號輕罪既決未決事件表裏面治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルキハ云々トアルヲ左ノ如ク改正シ及ヒ左ノ表式ヲ增補候條此旨相達候事
治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルキハ本表ニ準シ其裁判所々在ノ警部之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事へ差出シ輕罪裁判所ノ檢事ハ之ヲ取纏メ左ノ表式ニ

準シテ更ニ調成シ管轄ノ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

(別紙表式畧ス)

○司法省丙第二號 明治十四年十月廿七日

警視廳 府 縣

(東京府ヲ除ク)

本年丙第一号ヲ以テ相達候違警罪名表式ノ欄外ニ何違警罪裁判所ト記載アリト雖當分之内左ノ書例ニ據リ記スル者ト可心得此旨相達候事

違警罪公判表欄外ノ廳名ハ姑ク左ノ例ニ據ルヘシ

何府縣

何警察署

又ハ

何府縣

諸表

何警察分署

公廷取締

○公達第八十六号 明治十四年十月四日 警視廳 府 縣 (東京府神繩縣ヲ除ク)
 治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用
 ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡
 査爲相詰又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡查或ハ押丁ヲ
 シテ守卒トシテ公廷ニ入り看護セシムヘシ此旨相達候事
 巡查兵員使用手續

○公達第八十二号 明治十四年九月二十日 官省院使廳府縣

司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續
 ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證

及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察
 署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スル
 ヲ得

但事機緊急ナル時ハ直ニ之ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直ニ
 鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

罰金科料裁判費用沒收品處分

○司法省丁第二十五号 明治十四年十二月五日 大審院 裁判所

治罪法第四百六十二條第二項罰金科料裁判費用及沒收物
 品ノ徵收ハ書記局ニ於テ之ヲ擔當シ會計主任ヘ引渡ス儀
 可心得此旨相達候事

○拾遺

治罪法之部

總則

○布告第七號 明治十五年二月一日

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定ム

右奉 勅旨布告候事

豫審

令狀

○司法省丙第四號 明治十五年二月六日 裁判所 警視廳 縣 (東京府沖繩縣ヲ除ク)

治罪法ニ定メタル勾引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラズ但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用井サル儀ト可心得此旨相達候事

雜則

榜示

司法省丙第三號 明治十五年二月六日 裁判所 警視廳 縣 (東京府ヲ除ク)

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年五月當省第九號ヲ以テ相達置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年^{十二}第六十七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相達候事

- 一 死刑ノ宣告アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ雛形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地並犯人住居ノ地方 東京ハ警視廳 府縣へ速ニ送達スヘシ
- 一 警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ノ

雜則

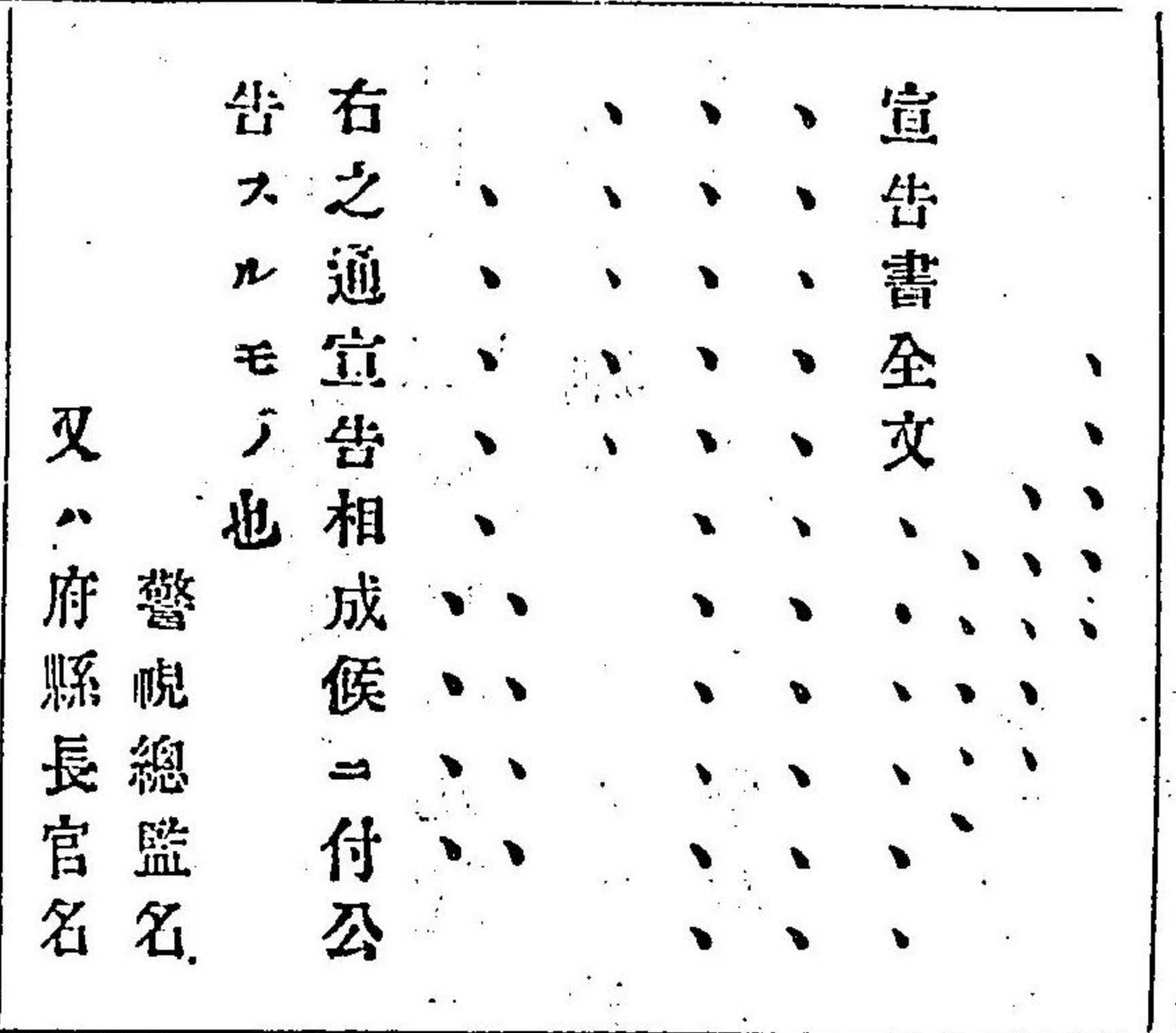
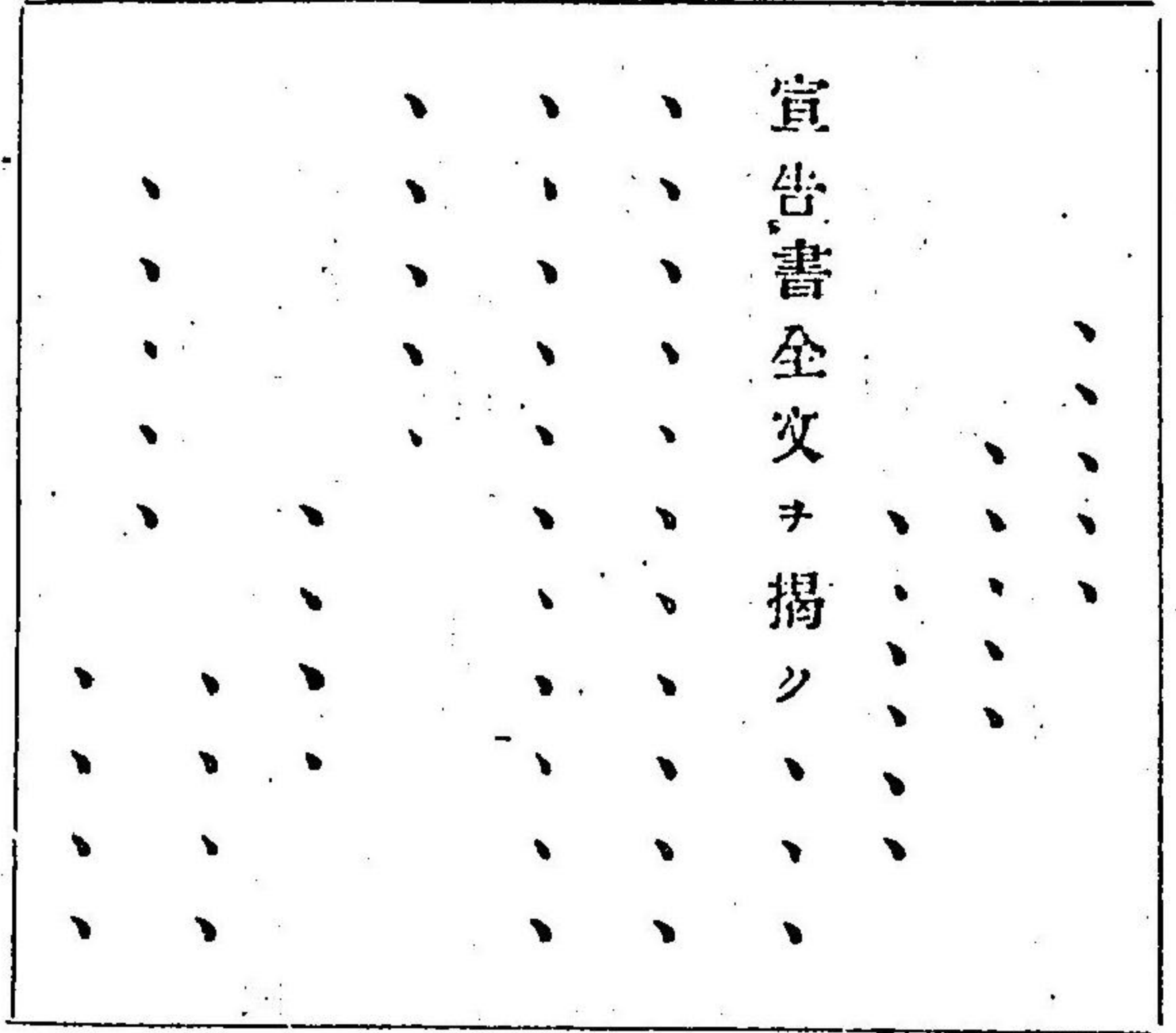
膽本送達アレハ左ノ雛形ニ據リ犯罪ノ地並犯人住居何
レモ三日間通衢ニ榜示公告スヘシ

死刑宣告榜示公告雛形

重罪裁判所門前榜示

犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

用紙堅質ノ品ヲ撰用ス



刑法附典類纂終

明治十五年二月十九日御届
同年同月 刻成



編輯兼出版人

京都府平民

西脇正信

近江國滋賀郡大津鹿關町
第拾番地寄留

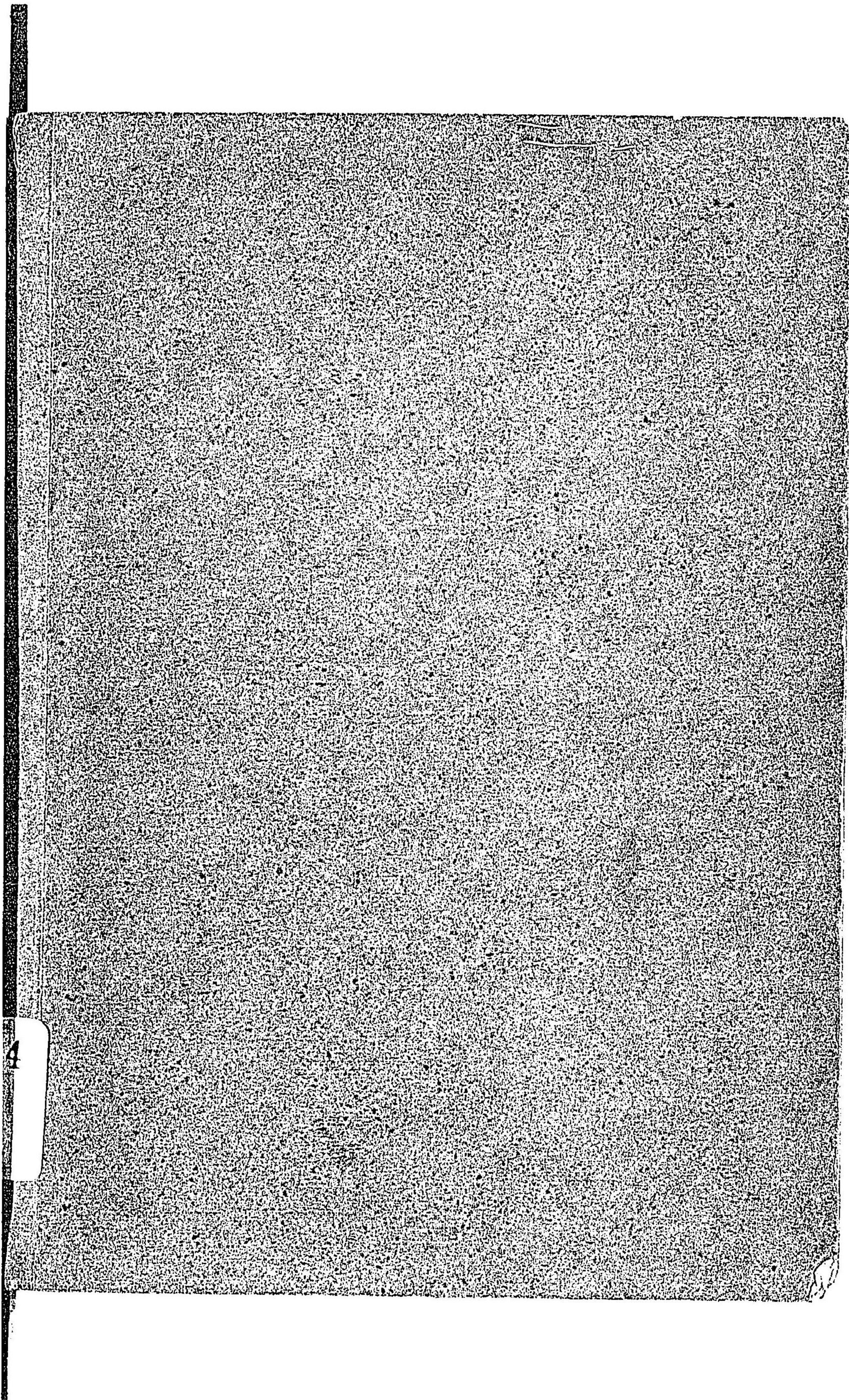
大津升屋町

小川義平

同 丸屋町

澤宗治郎

發賣書林



262
1
23

刑 法
治 罪 法
西 脇 正 信 編 纂
附 典 類 纂
發 兌 書 林
三 書 堂

035875-000-8

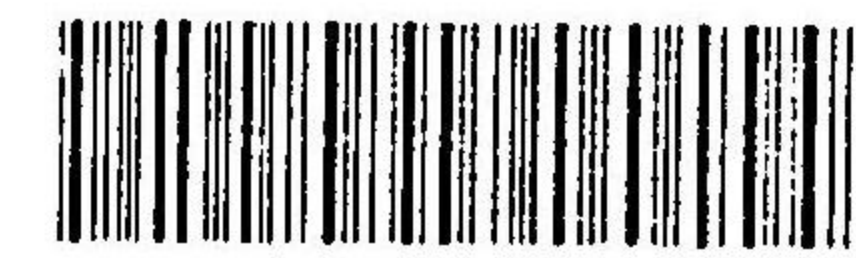
特14-451

刑法治罪法附典類纂

西脇 正信/編

M15

BBP-0463



特
14
451